

FMOCA コレクション展

MEDIUM FOR COMMUNICATION

フォーエバー現代美術館では、2008年4月から半年間に渡り、『心、身体、精神-Sense through Mind, Body, and Spirit-』をタイトルに光、時間、空間を各テーマとして、自然の風景や日常の事物をアーティストの心、身体、精神で捉え、表現した作品を紹介しました。それぞれのアーティストが用いる表現手段は、絵画、写真、版画、映像など、多岐にわたります。これまで当館に所蔵されてきた作品群も同様に、制作された時代や作家の意図により、様々な表現手段を用いて生み出されたものです。今企画展では、アート作品におけるコミュニケーション手段となる「媒体 (medium)」をテーマに当館の所蔵コレクションを紹介します。

アーティストにとっての言語に代わる表現手段となる作品の媒体や素材は、伝えようとするコンテンツや時代背景において最も適するものが選択されます。機能を与えられる媒体は多種多様であり、作品に対峙した鑑賞者が何を感じ、何を受け取るかもまた鑑賞者に委ねられます。また、媒体の性質によって、鑑賞者が受信する器官も異なり、時には視覚だけでなく聴覚や触覚、身体を動かしてその質感を感じようとすることも必要とされるでしょう。今展で紹介するアーティストの一人、ゲルハルト・リヒター (Gerhard Richter) は、ドイツ最高峰の画家であり、作品背景には次のような基本思想があります。「1. イメージは静的、表面的かつ、不確定である。2. リアリティーは、想像と創造、改訂の過程に存在する。」フォト・ペインティングやアブストラクト・ペインティング、ガラスを用いた作品など、様々な素材を用いることで、絵画という表現方法の可能性と不可能性、写真に存在する現実と幻想、そして、視覚として認識する行為自体への曖昧さを問いかけてきました。それは、単に両者の物質としての差異を探るだけではなく、それぞれの意義、伝達手段としての可能性、内包される要素から生み出される関係性を提示しています。また、当館のメインコレクションでもある草間彌生氏は、作品制作において様々な媒体を操るアーティストです。水彩、パステル、コラージュ、ソフトスカルプチャー、環境彫刻、パフォーマンスなど、様々な表現活動を行ってきました。多様な表現手段を用いることにより、作品自体の独自性を高め、常に時代の先端を走り続けています。それぞれの媒体は、草間氏のメッセージを最も的確に伝えると同時に、言語のみでは成し得ない鮮烈なインパクトと印象を私達に与えます。

私達はアーティストが創り出す作品を通じ、現実と非現実との境界を超えた一つの世界を感じることができます。新たなコミュニケーション手段となる媒体が次々と生み出され、日常の表現行為にも多く用いられるようになった現在、表面的な感覚のみでなくその奥に込められた意味を積極的に理解しようとする姿勢が求められているのではないのでしょうか。アーティストの手により、一つの物語として形成される作品、そこから私達が何かを受け取ろうとする行為は、アーティストの創作活動と同様に創造的な行為です。本展では、独自の媒体(medium)の奥から強いメッセージを放つ作品を紹介します。

2009年1月24日

フォーエバー現代美術館
チーフキュレーター 加藤 淳